



みんなで守ろう、地域の医療

# 救急医療を守る 命を救う

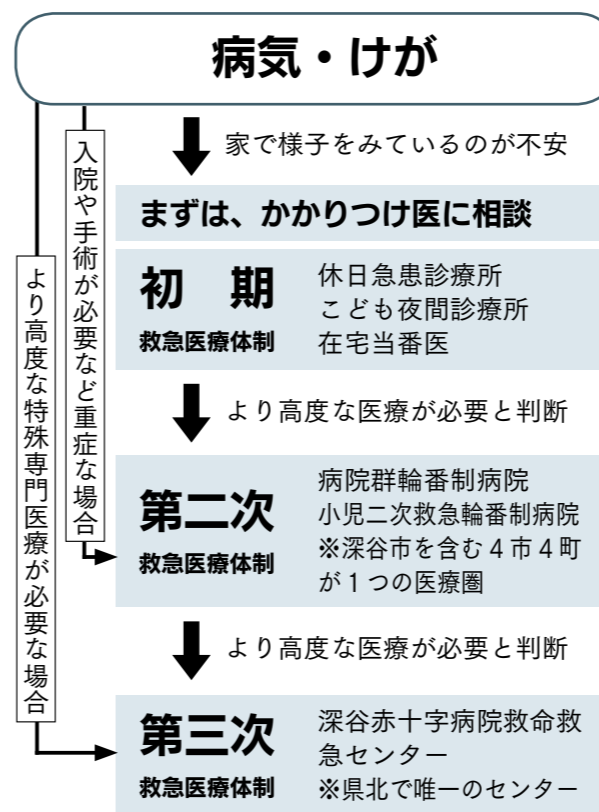
近年、医師や看護師の不足などにより、医療現場の疲弊が大きな問題となっています。誰もがいつでも安心して医療機関を利用するために、私たちはどんなことに気を付けなければいけないのでしょうか。

## 医療体制の役割を理解しましょう

救急医療は、比較的軽症の患者を受け入れる「初期救急」、入院や手術が必要な患者を受け入れる「二次救急」、より高度な医療が必要な患者を受け入れる「三次救急」の3つに分けられます。症状によって受け持つ機関を分けることで、医療体制を保っているのです。

軽症患者が第二次・第三次救急医療機関を受診することは、医療スタッフに過度の負担をかけます。これにより、緊急性の高い重症患者の受診に支障を来す状況が生じています。救急医療体制を守るためにも、ご理解とご協力をお願いします。

### 救急医療体制の役割と仕組み



#### 1 かかりつけ医を持ちましょう

体の不調を感じたときは、早めにかかりつけ医に相談し、適切なアドバイスを受けてください。

#### 2 診療時間内に受診しましょう

「夜間の方がすいているから」「昼間は忙しいから」などの理由で、救急医療機関を受診するかたがいます。そのため、救急外来が混み合い、本当に治療を必要とする人への対応が十分にできなくなる恐れがあります。

#### 3 救急医療機関の掛かり方

救急医療機関の医師は、すぐに入院して治療する必要があるか、翌日まで様子を見てよいかなど、一時的な判断をするのが役目です。翌日まで様子を見てよいと判断された場合は、応急処置を受けて、改めてかかりつけ医を受診しましょう。

普段から心掛けようね



## 救急車を適正に利用しましょう

深谷市消防本部管内（寄居町委託を含む）には、8か所の署に1台ずつ救急車が配備されています。また、救急救命士の人数は県北で最も多く、53人所属しています。平成24年の出動件数は7,347件、搬送人数は6,846人（そのうち軽症者49・1%）でした。これは、1日当たり約20件の出動となります。また、救急車が119番通報を受けてから現場

に到着するまでに要する時間は、平成24年平均で8分18秒でした。同じ地区で出動要請があった場合、遠くの消防署からの出動を余

儀なくされます。緊急性の低い救急車の利用は、一刻を争う重症患者の救急搬送に支障を与えかねません。本当に必要な時に、救急車を安心して利用するためには、救急車の正しい利用が不可欠です。

## 救急車が来るまでに行えることがあります

心肺停止状態になったとき、救急車が到着するまでに救命処置が行われるかどうかで、助かる可能性が大きく変化します。

消防署では、各種救命講習会を開催しています。いざというときに備え、ぜひ参加してください。

### 休日や夜間に体調が悪くなったら

※25ページも併せてご覧ください。

#### ■医療機関を受診する前に…

##### ○埼玉県小児救急電話相談

（☎#8000または☎048 - 833 - 7911）

子どもの急病（発熱、下痢、嘔吐など）時の家庭での対処法や、受診の必要性について看護師が電話で相談に応じます。

##### ○埼玉県救急医療情報センター ※24時間対応

（☎048 - 824 - 4199）

救急車を呼ぶほどではないが、緊急に受診が必要なときや、休日・夜間などに、受診可能な医療機関をご案内します。

#### ■初期救急医療体制

- ・休日急患診療所（内科・小児科）
- ・こども夜間診療所（小児科・内科（こども））
- ・在宅当番医（眼科・耳鼻咽喉科）

#### ■消防テレホンサービス・医療機関のご案内

災害情報、休日急患診療所・救急当番病院の問い合わせは、消防テレホンサービス（☎0180 - 99 - 4944）、指令課（☎571 - 0119）へ

### 普通救命講習会に参加しませんか

心肺蘇生法の基本を、救命講習指導員がわかりやすく説明します。

とき 毎月第4土曜日午前9時～正午

ところ 深谷消防署・花園消防署（隔月）

定員 先着30人（毎月10日から受け付け）

申し込み・問い合わせ 警防課（☎571 - 0914）へ

### 素早い処置が大切な命を救います

救急隊は3人1組、24時間交代で勤務しています。現場では、傷病者の状態をみて処置し、すばやく適切な医療機関に搬送できるよう心掛けています。救命は時間との戦いですので、皆さんの協力も不可欠です。正しい知識を身に着け、勇気をもって救命処置を実行していただければと思います。



救急救命士  
伊藤喜之さん



▲静脈路確保訓練

ふっかちゃんを応援したい♪  
13ページもご覧ください

ゆるキャラグランプリ

昨年は全国5位

今年もゆるキャラグランプリが開催されます。ご当地キャラクターブームまっただ中の今。その影響力は絶大です。上位に入ると各種メディアに取り上げられることも増え、深谷をそれだけPRできる機会が増えます。しかし、ゆるキャラ戦国時代とも呼ばれ、昨年は800キャラ以上がエントリーしました。



今年もエントリーしました。応援よろしくおねがいします。

9月17日(火)から投票開始

ふっかちゃんが優勝するには、皆さんの応援が必要です。ぜひ、ゆるキャラグランプリを、ふっかちゃんを通じた『市民まつり』として、楽しみながら一緒に盛り上げましょう。



▲JR深谷駅で選挙活動(昨年)

深谷をPR

ふっかちゃんの仕事はなんといっても深谷市のPR。テレビ番組などに出演するほか、市内外の各種イベントに参加しては、深谷の魅力を発信しています。今やふっかちゃんの人気は全国区です。ふっかちゃんを通して、深谷の良いところを知ったファンが全国にたくさんいます。深谷をもっと多くのかたに、もっと深く知っていただき、市内外から愛される深谷市を目指しています。

深谷をもっとPRして、深谷のファンを増やしたいんだ



ふっかパワーで  
深谷を元気に!

ふっかちゃんを応援すると  
深谷がもっと元気になる

平成22年6月28日に市のイメージキャラクターとして誕生したふっかちゃん。ご当地キャラクターブームに乗って、その経済効果も出始めています。ですが、ふっかちゃんの目指すものは経済効果だけではありません。ふっかちゃんをみんなが応援することで、深谷市をもっと元気で素敵なまちにしませんか。

経済効果

グッズの売り上げ7千万円超

ご当地キャラクターブームとともに注目されているのが、その経済効果です。平成23年のゆるキャラグランプリで優勝した熊本県の『くまモン』は、グッズの売り上げだけでも巨額になります。

ふっかちゃんも商業利用を進めており、随時申請を



▲ふっかちゃんグッズは日々増加

深谷に、もっと元気なまちになってほしいんだ

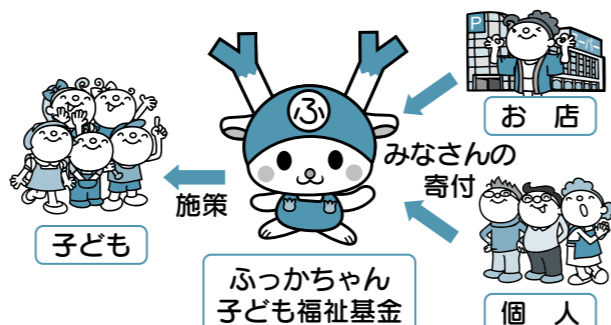


ふっかちゃん子ども福祉基金

皆さんからいただいた寄付金や、お店からふっかちゃんグッズの売り上げの一部を任意で寄付していただく、『ふっかちゃん子ども福祉基金』を設置しています。この基金は、次代を担う子どもたちの健やかな成長に役立つための事業に活用しています。

これまで、軽度・中等度難聴児のための補聴器購入の援助や、通級指導教室の教具(iPad)の購入に充てました。

みんなの生活を良くする  
お手伝いをしたいんだ



受け付けています。現在、申請件数は約800件。今では毎月100件以上の申し込みがあり、平成24年度のグッズ売り上げは7,000万円を超えています。

また、ふっかちゃんに来てほしいと依頼を受け、お出掛け件数も年々増加。市内外で、深谷を盛り上げています。



公式ファンブック  
初版3,500部売り切れ  
2,000部増刷

今秋  
DVD・写真集  
発売決定!!